

災害発生

その時あなたはどいするん？

いつどこで災害に合うかわからない、いざという時の対応は
防災対策課 (☎22-9191) へ

1 地震が起こったら

エレベーター内では、全ての階のボタンを押し、停止した階で素早く降りる。振動で停止したら、ドアの開閉ボタンを押す。動かない場合は非常ボタン、または内部の電話機で保守会社などの外部に連絡する。ドアをこじ開け外に出ようとしてはいけない。窒息する心配はないので、内部で静かに救助を待つ。また、地震時避難するときはたとえ動いていてもエレベーターで避難してはいけない。

地下街は地上に比べ揺れは小さい。壁や太い柱に身を寄せ、持ち物で10センチくらい空間を作って頭を守るようにする。

地下鉄では急停車することがあるので、つり革などにしっかりとつかまるようにする。

映画館・劇場は大空間なので天井が落下する危険がある。シートの間などに身を寄せて頭を守る。非常口に殺到せず、係員の指示に従う。

街中では落下物から身を守る。ビルのガラスは高さの半分の距離まで飛散する。自動販売機、電柱には近寄らないこと。

自動車運転中は、急ブレーキを踏まずにゆっくり停止して、交差点をさけ左側に寄せる。避難の場合はキーを付けたままでドアロックをしない。

スーパーマーケットでは陳列棚、大型商品の転倒に注意。買い物籠で頭を守るようにする。

揺れが収まったら津波の発生の有無を確認し、津波発生の場合は指定されている避難場所へ迅速に避難する。

2 火災が起こったら

火災を発見したら、「通報」「消火」「避難」どれを優先するか。ここで判断を誤ると命を落とす。初期消火できる段階で離れると被害を拡大させる。

宿泊施設では非常口や避難路、消火器の位置を確認する習慣を身につけておくこと。

マンションではバルコニーから隣室へ仕切り板をけ破って避難する。

避難する際には煙を吸ってはいけない。息を止めて壁を伝いながら避難すること。床の上スレスレの所は空気が残り、視界もあるので、あごを床につけるようにしてひじをつけて足だけで前に進む。階段ではコーナーに空気が残っている可能性がある。

就寝者に火災を知らせるために起こす方法としては、思いっきり「お」を叩いて起こすのが有効。

3 風水害等への対応

避難準備情報が出たらいつでも避難できるように準備し、「危険」を感じたら避難勧告を待たず早めの率先避難を心がける。

ゲリラ豪雨、局地的大雨は短期間に甚大な被害を及ぼす。特に川原でのキャンプ、バーベキュー、親水公園での水遊び、アンダーパス(道路

を掘り下げて交差する道路の下をくぐる道)等は特に注意が必要。前兆現象として、真っ黒い雲で周囲が急に暗くなる。ヒヤッとした冷たい風、大粒の雨が降り出す。雷鳴が聞こえるなどが考えられる。

竜巻注意報が発表されたら注意を払う。頑丈な建物に避難。車庫、物置は危険。逃げ込む建物がない場合は、くぼみや水路に身を伏せる。都会にいれば地下街に逃げ込む。屋内では雨戸やシャッター、カーテンを閉めて、窓から離れる。

4 崖崩れ、地滑り、土石流

崖崩れの前兆は斜面に割れ目ができ、水が湧き出て濁りだす。斜面から小石がバラバラ落ちる。

地滑りは斜面から湧き出た水や井戸の水が濁る。樹木がざわざわ動く。

土石流は山鳴り、石のぶつかる異様な音、葉が腐ったような異様な臭い、樹木がざわざわ動く。

土砂災害危険箇所は全国で約52万5千カ所、徳島県では約1万3千カ所あり、市内では土石流危険渓流が319カ所、急傾斜地崩壊危険箇所が957カ所ある。すべてハード対策を実施するのは困難であり、危険情報が発令されれば早めの避難が第一と心がけることが重要。